

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人
小羊学園
 〒433-8105
 静岡県浜松市北区三方原町 2709-12
 電話：053-584-3337 FAX：053-585-8488
 E-mail sasaeru@kohitsuji.or.jp
 H.P http://www.kohitsuji.or.jp/
 発行人：稲松 義人
 印刷所：SRS株式会社
 定 価：一部 30円
2016年3月20日
第394号

先月東京で開催された「21世紀キリスト教社会福祉実践会議」の大会では、北海道にある「浦河べつるの家」の実践について学ぶことができました。浦河べつるの家のことは、社会福祉、特に精神保健福祉関係においてユニークな実践として、全国的に注目されており、ご存知の方も多いのではないかと思えます。そこでは、統合失調症などのハンディをもつ人たちが、これまでの医療や福祉での取り組みのように治療や介護の対象として他者から一方的に援助される存在としてではなく、様々な症状を抱えて、あるいは社会での生き辛さを体験しつつも、自身自身と向き合い、仲間を支えられて地域社会の一員として生きていく存在として位置づけられているようでした。

浦河べつるの家で始められた自分自身に向き合うための実践は、「当事者研究」といい、課題を抱える本人が中心となり、周囲の人たちにも参加してもらいながら、自分自身の体験を分析し、それについて仮説を立て、「自分自身」をテーマにして研究します。それにもとづいて、さらに体験(実験)を積み重ねる中で実証し、そこから分かったことを「研究の

成果」として発表しておられるとのことでした。研究から、次の一步を探る取り組みは、必ず将来へ向けて希望へとつながっていくことになるのだと感じます。

小羊学園でも、毎年2月に職員による研究発表会を開催します。ここ数年、「利用者理解」を基本テーマにしており、対象となる「利用者」について様々な分析がなされ、課題を整理し、よりよい支援をめざして取り組んできた実践について発表されます。小羊学園で支援している人たち、いわゆる「当事者」である人たちは、自分のことを自分自身で省みて、それを言葉にして周囲の人たちに伝えることは難しいのですが、既存のスクールに沿って診断するのではなく、毎日の支援の中で気づいたことから、対象となる利用者について新しい発見があり、そこが研究の出発点となっています。

利用者さんがもつ課題は、さまざまです。身体的なハンディについての課題に対しては、それに対応できる優れた補助具や介護の方法について検討されることになり、知的理解の面でのハンディには、伝えたい内容を分かりやすく伝達できるように、伝達の具体的な方法を工夫します。

しかし、実践の中で最も悩ましい問題は、人間関係の中で示される課題ではないかと思われ、職員やご家族、周囲にいる人たちは、対象となる利用者の態度や行動にどのように対応したらよい

のか頭を抱えます。行動の現れは、対応する人によつて違い、その日によつても、あるいは環境によつても違います。場合によっては、対象者からの攻撃的な態度も受け止めなければなりません。対応する職員もまた感情をもった人間です。日常生活の中で利用者さんとのやりとりの中で心が乱れます。そんなとき、相手を批判的に捉えて攻撃してしまう自分に気づきます。あるいは現実を受け止めきれなくなつて塞ぎこんでしまう自分、課題解決への方向性が見えず、向き合う意欲が失せてしまうこともありま

「当事者研究」の勧め
 理事長 稲松 義人

このようなときに、私たち自身もまた「当事者研究」が必要なのではないかと思えます。この「当事者研究」がめざすのは「自己覚知」ではないかと思えます。自分だけで「当事者研究」するのではなく、そこに一緒に付き添ってくれる人をスーパーヴァイザーと言ふのかも知れませんが、



また、3月12日には、支援センターわかぎこすもすホールで「さをりワークショップ」を開催しました。障がいを持つ方と健常の方が、さをり活動を通して交流を深めました。

支援センターわかぎの活動「さをり織り(機織り)」が、2月2日(土)28日に、天竜区にある「ギャラリー60」で展示販売会を行いました。昨年から開催して今年で2回目を迎えたギャラリー60には、利用者の作品が展示され、お越し下さったお客様の目を惹きました。同時にポーチやコースターなどの商品もお買い求め下さいました。

また、3月12日には、支援センターわかぎこすもすホールで「さをりワークショップ」を開催しました。障がいを持つ方と健常の方が、さをり活動を通して交流を深めました。

さをり織りで地域交流

に歩んでいく存在でありたい。日々たくさんのごことを学ばせてくれるかわいい子どもたちに感謝でいっぱいである。

重症児在宅支援講演会
こどもたちの光り輝くみらいのために
魅力ある活動で社会を動かす

日時 2016年4月16日 13時~15時
 場所 つばさ静岡
 静岡市葵区城北117
 講師 本間 りえ さん
 NPO法人ALDの未来を考える会理事長
 参加対象 重症児の保護者
 重症児の支援に関わっている人
 その他関心がある人
 参加費 無料
 定員 100名
 主催 社会福祉法人 小羊学園
 つばさ静岡
 共催 重症児を守る会 静岡県支部
 NPO法人ぴゅあ(静岡市)
 問合せ つばさ静岡
 ☎054-249-2830

生活介護の変更・新設「風の丘」
 浜松市北区の三方原スクエア成人部は、障害者支援施設として施設入所支援+生活介護を運営しています。生活介護利用者の増加に伴う対策及び職住分離を意識した活動から、28年4月より、浜北区平口(支援センターわかぎ東側)に新規指定を受け、「風の丘」(定員20名)を新たに立ち上げます。風の丘は、自閉症の方が中心となる活動展開となります。これにより、三方原スクエア成人部の生活介護の定員を20名に変更します。



小羊学園を支える会
2015年度 寄付金報告
 2月 受付分 354,300円(24件)
 累計 8,968,063円(375件)

小羊学園への寄付金振込み先
 郵便振替口座 00800-8-107785
 口座名義 社会福祉法人小羊学園
 ゆうちょ銀行 089店 当座預金0107785
 口座名義 社会福祉法人小羊学園
 ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。
 下記へご連絡ください。
 小羊学園を支える会事務局(鈴木)
 小羊学園法人本部 ☎053-584-3337

編集後記
 先日、厚生労働省から全国課長主幹会議の資料が開示された。施設運営に関わる報酬改定は2年後の見直し予定であるが、全国の運営法人の収支差率を鑑みて時期改定の判断材料とされることから、大きな不安材料であることは間違いない。その他、グループホームや短期入所など在宅者・地域支援に関わる整備が急務とされている一方、運営側として事業拡大へのマンパワー不足が課題となる。福祉の世界でも障害分野はマイノリティと言われる中、この仕事の魅力を啓発することも私たちの努めだとして、桜の開花便りも届く折です。心とむ日々が過ごせますように。(F)

